

小樽税務署長賞

小樽市立桜町中学校 1年

北角 一華

税がつなく当たり前の暮らし

「どうしようかなあ。」

小学四年生だった私は、税に関する絵ハガキのデザインを考えていた。私は税金が身の回りでどのように使われているかを絵で表そうと思った。けれども、私が知っていたのは、「税金」「消費税」という言葉で使い道や税の仕組みなどは知らなかった。そこで私はインターネットで調べることにした。調べてみると税に対する感じ方ががらりと変わった。

国税庁で配信されている税が無い世界をテーマにした動画を見た。その動画の中では税が無くなると道路や橋が整備されなくなり、警察や消防も自分たちがお金を負担しないと出動なくなり、街がボロボロになっていた。

もしも救急車が有料になってしまうと、お金がない人はどうしたらいいのだろうか？救えるはずの命が無くなってしまふかもしれない。警察が警備などをしなくなったら犯罪が増えてしまふ。教育費や医療費が高額になれば学校・病院に通えない子も出てくる。私はこの事を知った時、税と関わらず、支えられず過ごした日は今までどのくらいあったのだろうか？と考えるってしまった。

税金が無いとこれまで当たり前だと思っていた生活もできなくなっていくだろう。また、私たちが受けている税による恩恵から目を背け「納税」という部分だけに焦点をあてて、税を無駄なお金と考える人もいる。私も「なぜ税金を支払わなければいけないの？」と思っていた。しかし、通学路の道路整備や教科書などの教育費、更には日常では欠かせない水道の整備にまで税金は使われている。そして私たちの暮らしの大半はたくさんの税金によって多くの人が思う「当たり前の暮らし」が成り立っている。どれもこれも一人一人が税金を払っているからできることであり、税金は決して無駄ではなく、必要不可欠で、暮らしを支える基礎であることを忘れてはいけない。

今の世の中、税金と私たちは切っても切り離せない関係である。そして私は払っている税金の何十倍も、何百倍もの恩恵を受けてきているので費用対効果がとてもいいと思った。更に、こんな豊かな生活を「当たり前」だと思えるような暮らしを築いてきてくれた方たちに感謝し、自分が社会人になった時、今まで受けてきた恩恵の分これからも社会に貢献していきたい。